



写真-1 お箸で橋をつくらう

ホームページを作っている。小学生向けの土木紹介のページである。技術伝承の一環であるが、技術というより土木の「こころ」を伝えたいという願いが込められている。さらに、お箸で橋を作ろうという「親子で橋づくり」を開催したり、各種イベントの支援として、例えば神戸市の「土木の学校」の手助けに出向く。大阪市内の小学校の総合学習にも加勢している。活動開始当初から継続している企画に市民向け見学コースの立案・実施がある。土木遺産、町のいぶきなどをテーマに2~3時間程度のまち歩きである。このルートの案内人になることが技術伝承に繋がってほしいという想いからこの企画は続いている。

この他、ミニ講演会・囲む会を催したり、特定のテーマで勉強会・研究会を開いたり、時には夕陽のきれいなところを選んで合宿を張ったりしている。こういう企画はすべて誰かが言い出して、賛同者が集まる。これを、「この指とまれ方



写真-2 まち歩き~都市の水、今昔~ 住之江抽水所見学

式」と呼んでいるが、できるだけ幹事に負担が集中しないように、また誰からでも発案できるように、同時に提案者の運営担当という慣行を尊重している。

読者の皆さん、是非とも CVV の活動に参加してほしい。定年間近の方だけでなく、若い賛同者も大歓迎である。メンバーリスト上だけのメンバーでも大いに結構。CVV に重心を移していただくという期待もあるし、メール上だけでできる活動もある。

最後に、全国各地で同じような活動をされている方々、是非交流したい。全国ネットを張りましょう。

URL:<http://www.cvv.sakura.ne.jp/>

Email:info@cvv.jp

コラム 土木・教育

三村 衛

MIMURA Mamoru
正会員 博(工学)
京都大学防災研究所 助教授



われわれ大学教員は、自分が良いと信じるものを教育科目として提供していると自負している（これはまさに供給者の論理）が、需要者である学生および彼らが将来属する土木界の求めているものは何であるのかを、供給者として

的確に把握しているかという甚だ疑問である。本来、大学における土木教育に求められているものについて、もっと真剣に市場調査を行うべきである。ただし、盲目的にそれに迎合せよと主張しているのではない。要は供給者と需要者が相互に情報を交換しあい、土木教育に求められているものを十分認識した上で、われわれは何故これを学生に教えなければならないのかという理念を明確に表明すればよいのである。このことは土木界と一般社会の関係にもそのまま当てはまる。供給側にいる者として、大学にあっては何故この科目が、土木界にあっては何故このインフラが必要なのかについての理念を明確に示すことと、その説明責任が強く求められていることを肝に銘じたい。